

## 2021 年度 第 2 回理事会議事録

I. 会議名 : 2021 年度 (公社) 日本地すべり学会 第 2 回理事会

II. 開催日時 : 2021 年 9 月 14 日 (火) 14 時 30 分～16 時 50 分

III. 開催場所 : WEB会議

IV. 出席者 : 理事出席 18 名, 監事出 2 名, その他 1 名

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
理事	浅野 志穂	○	理事	太田 英将	○	理事	富田 陽子	○
理事	石丸 聡	○	理事	加藤 猛士	○	理事	中里 裕臣	○
理事	岩橋 純子	○	理事	笹原 克夫	○	理事	中村 真也	○
理事	宇次原 雅之	○	理事	佐藤 剛	○	理事	平松 晋也	○
理事	榎田 充哉	×	理事	佐藤 浩	○	理事	藤井 俊逸	×
理事	大河原 正文	○	理事	柴崎 宣之	○	理事	渡部 直喜	○
理事	小山内 信智	○	理事	高山 陶子	○	(理事 18 名, 定足数 11 名)		

監事	今泉 文寿	○	監事	相楽 涉	○	(監事 2 名)		
----	-------	---	----	------	---	----------	--	--

事務局	鈴木 英則	—	—	(その他 1 名)			
		—	—				

○理事会開始時における理事の出席数は 17 名. 定足数 11 名 (理事の過半数) を満たし理事会は成立。

○大河原理事は、審議事項-5 より出席 (出席理事 18 名)

○議事録署名人は、平松会長、今泉監事、相楽監事

### <議長あいさつ>

平松会長が開会のあいさつを行った。

### <議事録の確認>

浅野理事より、第 1 回 理事会 議事録の内容は理事へ確認済みであることを説明した。また、参考資料として添付した第 1 回 理事会 議事録の議事項目についての確認が行われた。

### I 審議事項

#### 1. 表彰細則の改定

柴崎理事より、資料に基づき表彰細則の改定内容について説明が行われた。

説明後の質疑応答は、以下の通りである。

- ・公益性を考慮して論文賞、研究奨励賞については、表彰細則から「地すべり学会誌に掲載された」という文言を削除したということであるが、公益性を考慮したという理由であれば、技術報告賞についても、「地すべり学会誌に掲載された」という文言を削除してもよいのではないか。

⇒技術報告は地すべり技術に関する当学会オリジナルなカテゴリと考えているため削除しなかった。また、技術報告賞は、論文の二軍みたいな考えもあって創設された経緯がある。しかし、現在は、論文であっても、研究ノートであっても、技術報告であっても、良いものには賞を与える考え方をしている。

⇒公益性に関して他学会との横並びを考えると、技術報告だけオリジナルであるという考え方は気になる。

⇒論文賞、研究奨励賞は、横並びになっている、技術報告は地すべり技術に特化している点で、地すべり学会特有のものという位置づけで良いと考える。

⇒そもそも、そもそもこの改定をしようとした経緯は、内閣府から推薦する人と、表彰される人を学会員に限定してはいけないという指摘にある。表彰細則の内容は指摘されていないし、前回(2019年)の内閣府の立入り検査でも指摘されていない。当学会で、今時点でできることは何かという点で妥当であると判断する。本案に賛成したい。

- ・審議の結果、賛成 17 票、反対 0 票で承認された。

## 2. Alexander Strom 先生による講演会

佐藤理事より、資料に基づいて以下の説明が行われた。

- ・WLF5 への参加に当たって teams によるオンライン講演会を開催したい。参加費は無料で、日本地形学連合との共催を考えている。これらについて審議を頂きたい。

- ・理事からの意見はなかった。審議の結果、賛成 17 票、反対 0 票で承認された。

## 3. 2021 年度災害調査報告会の開催

笹原理事より資料に基づいて、以下の説明が行われた。

- ・11/26 に災害調査会を開催するか否か、研究調査部の方針を検討した。

- ・災害調査報告会は行わない方針であったが、地すべり学会として6事例の災害調査を行っているが、この内の5編程度、災害調査報告を行いたいとの希望があった。オンラインで災

害調査会を行いたいと考えているので、審議を頂きたい。

⇒11/26の理事会は、オンラインか、現場か。

⇒現場とオンラインのハイブリットを予定している。

⇒災害調査を行った6事例の全てが報告できるとは考えてはいない。報告事項については、今後、研究調査部で検討を行う予定である。事業計画部との共催になるので、事業計画部との調整をお願いしたい。

・審議の結果、賛成 17 票、反対 0 票で承認された。

#### 4. WLF5 セッション運営への協力

笹原 ICL 委員より、資料に基づいて、地すべり学会へ協力して頂きたい以下2つの事項について審議いただきたいとの説明が行われた。

- ① 地すべり学会企画の8セッションの座長と副座長をWLF5に参加する方より選出したい。人選は、ICL委員長より依頼することを考えている。
- ② WLF5事務局が行うセッションの会場係を地すべり学会より選出して欲しいとの依頼があった。何人選出するかは、まだ決まっていないが、おそらく10人前後になる見込みである。WLF5参加者以外からも選出することになりそうである。具体的な依頼方法は、決まっていない。

・理事からの意見はなかった。審議の結果、賛成 17 票、反対 0 票で承認された。

#### ○大河原理事参加（参加理事 18 名）

#### 5. 入退会者状況

・鈴木事務局長より、資料に基づき、地すべり学会への入退会状況についての説明が行われた。

・理事からの意見はなかった。審議の結果、入会者について賛成 18、反対 0 で承認された。

#### 6. 会勢状況

鈴木事務局長より資料に基づいて、以下の説明が行われた。

- ① 退会者に比べて、入会者の方が年齢は10歳若い。
- ② 入会者が増えれば学会員の平均年齢は下がる。
- ③ 入会の理由の1番は、研究発表会に参加したいことであった。
- ④ 研究発表会を魅力的なものにすれば、入会者は増えていくだろう。

・理事からの意見はなかった。

## 7. その他

特になし

## II 報告事項

### 1. 2021 年度通常社員総会

柴崎より、資料に基づいて、2021 年度の通常社員総会の状況について説明が行われた。理事からの意見、質疑応答は特になかった。

### 2. 北海道大会の実施状況

石丸理事より、資料に基づいて、以下の説明が行われた。

- ① 明日より研究発表会、道民後援会は日曜日より開始されている。参加人数は、国機関・団体 49 名、都道府県市町村 8 名、学校・教育 58 名、民間 273 名、合計 388 名、オンライン現地見学のみ参加者 22 名を予定している。
- ② 令和 2 年、令和 3 年の表彰者は、以下の通りである。

<令和 2 年度>

- ✓ 技術報告賞（令和 2 年度受賞）：西井 稜子（新潟大学）
- ✓ 査読者賞（令和 2 年度受賞）：山崎 孝成（国土防災技術株式会社）

<令和 3 年度>

- ✓ 論文賞 濱崎 英作（株式会社 アドバンテクノロジー）
- ✓ 技術報告賞：田近 淳（株式会社ドーコン）
- ✓ 技術報告賞：片山 直樹（株式会社日本海技術コンサルタンツ）
- ✓ 査読者賞：阿部 真郎（奥山ボーリング株式会社）
- ✓ 国際賞：王 文能（英語表記：Wen-Neng WANG）（元 台湾工業技術研究院能源資源研究所）
- ✓ 国際賞：山岸 宏光（元 株式会社シン技術コンサル）（※山岸氏を学会賞へ推薦した株式会社シン技術コンサルの志村 一夫様が代席）
- ✓ 学会活動貢献賞：学会誌編集委員会（団体）編集委員長の渡部 直樹様が出席

- ③ 当初、キャンセル料として 50%の支払いを予定していたが、緊急事態宣言が延期になったことから支払い額が減り、結果、赤字は 10 万円未満の見込みになっている。

・理事からの意見、質疑応答は特になかった。

### 3. 2021 年度シンポジウム実施報告

佐藤剛理事より、資料に基づいてシンポジウム開催に当たっての課題等について説明が行われた。

- ① オンラインで行われるシンポジウム等については、無料化を検討して欲しいとの意見がある。参加費の設定について、検討が必要と考えているが、オンライン会議を行う場合においては、その会議の環境整備等の費用が発生する。
- ② オンライン開催と現地開催のハイブリット開催が良いと考えられるものの、ハイブリットにすると、開催に当たっての手間・費用は、現地開催よりも増えることが課題と考えている。今回のオンライン開催の経験を蓄積して次年度につなげたいと考えている。  
・理事からの意見，質疑応答は特になかった。

### 4. 「斜面防災危険度評価ガイドブック」の出版

鈴木事務局長より、資料に基づいて、契約内容、販売状況と収支（当初 40 万円程度のマイナス収支であったが、マイナス額は 16 万円程度になった）について説明が行われた。

説明後に理事から出された意見・質疑応答は、以下の通りである。

- ① 当初、学会より負担があるということで学会に著作権料 6%（著者 2%）が入る形になっていた。重版の場合の印税の取り決めについて決める必要がある。
- ② 当初、出版に当たって、東北支部で 40 万円の補填を考えていた。その金額の取り扱いはどうなっているか

⇒出版費用の 100 万円支出の内訳は、学会本部から 60 万円、東北支部 40 万円となっている。既に、東北支部の予算は支出されている。

### 5. 「地すべり学会 BIM/CIM ネットワーク」活動

富田理事より、活動方針について以下の説明が行われた。また、柴崎理事より運営要領についての説明が行われた。

- ① 学会誌および学会 HP より公募を行った結果、91 名の応募があった。名誉会員からも応募があった。
- ② オーガナイザーとして 11 名の応募あり、アドバイザーは若井会員、杉本会員に決まった
- ③ 9 月 17 日にオーガナイザーとキックオフミーティングを行う予定である。オーガナイザーは希望のあった 11 名を考えている。
- ④ 事務局は、富田理事、加藤理事である。活動期間は当面 2 年間で、開催回数は、10 回程度を予定している。
- ⑤ 1 回の企画はオーガナイザー 2 名程度が担当し、会議はオンラインで行う予定である。

会議がオンラインになったため、北海道から九州までのメンバーが参加したように思う。  
説明後に理事から出された意見・質疑応答は、以下の通りである。

- ① BIM/CIM ネットワークへの参加を応募された名誉会員は、顧問の位置づけが良いと考える。
- ② BIM/CIM ネットワークの活動は、無理のない工程で行って欲しい。
- ③ BIM/CIM ネットワークに入るために2名が地すべり学会へ入会した。

#### 6. アウトリーチ・若手会員対策支部連絡会

加藤理事より、資料に基づいて、アウトリーチ、若手対策会員対策についての活動内容について説明がなされた。

理事からの意見、質疑応答は特になかった。

#### 7. 2022 年新規 IPL プロジェクトの募集

笹原 ICL 委員より、IPL 研究プロジェクトの新規募集の案内があった。募集概要は以下の通りである。

- ✓ 募集要件：ICL 会員であること（地すべり学会は ICL 会員）
- ✓ 申請書の提出〆切：2021 年 12 月 15 日
- ✓ 申請書の提出先：ICL 事務局
- ✓ 申請書の提案説明：2022 年 3 月 15 日（IPL-KLC 会議（京都））
- ✓ 募集に当たっての留意点
  - ① 地すべり学会の代表としてプロジェクト募集を行うことから、プロジェクトの申請書類は、地すべり学会の ICL 委員会が審査（アドバイス）する。
  - ② ヨーロッパの研究者は IPL プロジェクトに多数応募してくる。プロジェクトの研究費用は手持ちであるものの、このプロジェクトに応募することで、毎年 3 月にヨーロッパで行われる IPL 会議で年次報告ができること、年次報告でヨーロッパの研究者と議論する機会が得られるというメリットがある。
  - ③ 日本地すべり学会はとして、重要な海外への発信窓口になるので、積極的に応募して頂きたい

説明後の理事からの意見は、以下の通りである。

・海外への発信の橋渡しなので長い目で見れば悪い話しではないが、個人の負担が大きいと考えられる。

#### 8. その他

特になし

以上

議 長 平松 晋也 ⑩

議事録署名人 今泉 文寿 ⑩

議事録署名人 相楽 渉 ⑩